

Ⅱ 事業報告

1. 教職員を取り巻く環境の変化

(1) 2016年度の管理者就任は次のとおりである。

聖学院大学では、政治経済学部長に谷口隆一郎教授、人文学部長には清水均教授、人間福祉学部長には古谷野亘教授が就任し、副学長に平 修久教授及び清水均教授が就任した。また、女子聖学院中学校高等学校長には山口博氏が就任した。

(2) 2016年度は、入学者数の減少により資金面を含む厳しい財政状況であり、財政改革プロジェクトを立ち上げて財政改善を検討し実行に移した。

(財政改革)

次のことを実施した。

- ・ 理事長及び理事報酬、管理者手当の20%から50%の範囲でのカット。
- ・ 教職員人件費の前年度を更に下回る削減。
- ・ 大学教員の定年年齢の引き下げ。
- ・ 事務職員の希望退職募集。
- ・ 一貫校としての教育体制の見直しの実施。
- ・ 学生、生徒等の募集の強化。
- ・ 節約マインドの更なる醸成。
- ・ その他

2. 教育環境の整備

(1) 主な改修工事、購入等（1千万円以上） (千円)

①聖学院大学	1号館A棟および体育館耐震補強工事関係	262,612
	1号館アクティブ・ラーニングスペース整備	3,641
	図書館棟自動火災報知器受信機の更新	11,880
②聖学院中高	本館5階フューチャーセンター改修工事	27,405
	校舎棟壁面撥水塗装3期工事	44,518
③女子聖学院中高	全教室電子黒板プロジェクタ整備	10,800

(2) その他

聖学院大学

<GP> *Good Practice (優れた取組) 略

2012年度以降、新潟大学を監事校とする「関越大学グループ」(17校)に属し、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を以下のテーマで活動をしていたが、一昨年度(2015年度)を以て終了し、2016年度以降は関越大学グループには属していない。

<科学研究費補助金>

①代表者分（本学の教員が代表者の科学研究費補助金） 8 件

直接経費：7,850 千円

間接経費：2,355 千円

※学外研究分担者へ配分した直接経費及び間接経費の金額は含まない。

②分担者分（他大学の教員が代表者の科学研究費補助金）

7 件 直接経費 1,005 千円 間接経費：301.5 千円

合計 15 件 直接経費 8,855 千円 間接経費：2,656.5 千円

3. 聖学院各学校の主な事業

〔聖学院大学・聖学院大学大学院〕

(1) 新たなる教育事業への取り組み

学術系出版会からは珍しい、文芸（ファンタジー）と学術を融合させた書籍（『魔女は真昼に夢を織る』）を刊行した。この書籍は紀伊國屋書店、丸善書店、ジュンク堂書店の全国全店舗に配本され、多くの方々に提供することができた。

(2) 環境基盤の整備

- ① 図書館利用者用プリンターを新規で3台増設し、1階から4階まで館内全てのフロアで印刷ができるようになった。
- ② 聖学院学術情報発信システム「SERVE」が、国立情報学研究所「JAIRO Cloud」へ移行し、10月より公開が始まった
- ③ 「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」により、1号館2階講義教室4教室に可動式の机・椅子を設置。そのうち、プロジェクタ未整備であった2教室に電子黒板機能付きプロジェクタを設置した。これまで、本学のアクティブ・ラーニング対応教室は演習教室などの小規模教室がほとんどであったが、本整備により、少人数の実習・演習型授業のみならず、合同授業や大人数の講義型授業においてもアクティブ・ラーニングやグループ・ワークを取り入れやすい環境となった。
- ④ 1号館には無線LANのアクセスポイントが設置されており、授業以外でもイベントや課外活動、授業時間外に学生に開放することでPC、タブレット、スマートフォンなどの携帯端末の活用による準備学習などでもアクティブ・ラーニング設備を利用できる環境が整った。
- ⑤ 1号館地下学生ホールに「地域共生広場『1cafe』」がオープンした。同スペースは、学生の学びと「地域交流キャンパス」としての大学と地域の相互理解と交流促進、地域社会の発展とグローバル化の促進などを目的とし、国際交流会（6月8日）や、ボランティア紹介イベント（7月6日、7日）、地元の太谷地区と連携した防災講座（12月17日）を実施した。

(3) 国際連携

- ① 第6回となる日韓神学者学術会議を「日韓神学シンポジウム 2016」として11月18日に本学ヴェリタス館教授会室にて開催した。テーマは「告解と赦しと和解の神学形成」。セッションⅠ：講演「告解と赦しと和解の神学試論 -ボンヘッファーに学びつつ」。講演者：江藤直純（ルーテル学院大学 学長・教授）。コメント：白忠鉉（ペク・チュンヒョン）[Chung-Hyun Baik]（長老会神学大学校 助教授）。セッションⅡ：講演「和解の神学」。講演者：尹哲昊（ユン・ Chol Ho）[Youn, Chul Ho]（長老会神学大学校 教授）。コメント：関根清三（聖学院大学大学院 特任教授） 参加者は63名であった。2017年度は韓国にて開催予定。
- ② キリスト教カウンセリング研究講演会を2017年2月17日に外部会場（東京：日本印刷会館）にて開催した。講師に香山リカ（精神科医・立教大学現代心理学部映像身体学科教授）氏をお招きした。テーマ「現代人のメンタルを救うのは誰かー医療、経済、宗教を考えるー」。2017年度も外部会場にて開催を検討している。
- ③ アメリカの提携校ホープ大学にて1年間の交換留学期間を終え1名が春学期に帰国した。また、秋学期にはホープ大学（1年間）と、ラグレインジ大学（1学期）にそれぞれに1名ずつ派遣し、貴重な国際交流の機会を得た。
- ④ 短期語学研修をカナダ、韓国、オーストラリアで実施した。

- ⑤ 留学生が母国の文化を紹介する国際交流会を6月に1Cafeで開催。在籍留学生数も273名(5月1日現在)となり、当日は約200名(教職員、日本人学生含む)が出席した。

(4) 学生・教職員等の活躍

- ① 第100回日本陸上選手権大会兼第31回オリンピック代表選考会 女子走高跳決勝(6位入賞)、天皇賜杯第85回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子走高跳決勝(8位入賞)、第71回国民体育大会陸上競技 成年女子走高跳決勝(14位)、第95回関東学生陸上競技対校選手権大会 男子二部100m決勝(8位入賞) 男子二部棒高跳決勝(8位入賞) 男子二部三段跳決勝(6位入賞) 男子二部やり投決勝(4位入賞) 女子一部走高跳決勝(3位入賞) 女子一部棒高跳決勝(4位入賞) 女子一部三段跳決勝(6位入賞)、第27回関東学生新人陸上競技選手権大会・関東学生リレー競技会 女子棒高跳決勝(4位入賞) 女子円盤投決勝(8位入賞)、第89回関東陸上競技選手権大会兼第101回日本選手権予選会 女子400m決勝(6位入賞) 女子走高跳決勝(3位入賞) 女子棒高跳決勝(7位入賞) 女子走幅跳決勝(6位入賞) 女子三段跳決勝(4位入賞)
- ② 全国大学ビブリオバトル2016に1名が二年連続で本戦に出場した。
- ③ ビブリオバトル普及委員会による『ビブリオバトル文字・活字文化推進キャンペーン』にて、聖学院大学総合図書館が金賞を受賞した。
- ④ 7月16日放映のテレビ埼玉「ウィークエンドニュース」にて東日本大震災から6年を迎える中、現在も活発な活動を展開している復興支援活動について、岩手県釜石市を拠点として実施しているボランティアスタディツアーの事前学習会の様子が放映された。
- ⑤ 9月8日放映のテレビ埼玉「ニュース930」にて、こども心理学科2年生の菅野雄大君が出身地である宮城県仙台市で復興支援に取り組む様子が放映された。

(5) その他

- ① 長年続いてきた1泊2日のリーダーズキャンプを大きく変更し、9月12日に学内の1Cafeで実施した。学外からファシリテーターを招き、自ら課題を発見し考えることを目標に、準備段階から学友会メンバーと学生課職員が共に検討を重ねた。当日は、今後の学友会活動や所属するクラブ等の活動の活性化や課題について活発な議論がなされ、また交流がもたれた。
- ② 1) 地域連携の一環として「OKEGAWA hon プラス+」にて行っている聖学院大学公開イベントに出版会、司書課共催にて参加した。第二部の著者と学生によるトークセッション及びサイン会(販売会)は、市民のみなさまに好評に終わることができ、丸善桶川店にも喜んでいただけた。
- 2) 四半世紀参加していた大学出版部協会を2016年度をもって脱会した。
- ③ 近隣自治体との連携事業として2011年度より毎年実施されている「子ども大学 あげお・いな・おけがわ」を本学においては「市場経済ってなんだろう?」と題して政治経済学科の教員による授業が6月11日、18日と実施された。小学5・6年生40名の参加があった。
- ④ 上尾市との協定に基づき2014年度より実施している「あげお子ども大学」が児童学科の協力を得て11月26日に実施された。小学校4・5年生30名の参加があった。

〔聖学院大学附属みどり幼稚園〕

(1) 記念事業

みどり幼稚園 40 周年に向けての取り組みとして、卒園生データベースを構築し同窓会組織の整備に着手した。

(2) 新たなる教育事業への取り組み

- ① 国際理解教育の一環として、年長クラスで行ってきたネイティブ講師による「英語の時間」を年中クラスから実施すると共に、聖学院大学の留学生をお招きして園児達との交流の場を設けた。
- ② 発達に課題を持つ子ども達への支援の充実のため、特別支援教育コーディネーターを依頼し、定期的に研修会を持つこととした。
- ③ 在園生および卒園生の保護者を対象とした子育て支援事業の一環として「子育ておしゃべりサロン」を5回実施した。

(3) 教育研究の充実

- ① 全園礼拝の充実に向けて、全専任・特任教員が参加しての聖書の学びの会をほぼ毎週実施した。
- ② 防災の一環として、地震・火事など様々な場面を想定した避難訓練を年4回実施した。

(4) その他

- ① 毎年実施している音楽会にウクレレ奏者の石川優美氏とフラダンス講師をお招きした。
- ② 保護者向けの教育講演会として、愛育学園愛育養護学校研究員（元聖学院大学児童学科特任講師）の佐治由美子先生をお招きし、「子育ては待つことが大事、と言うけれど…」と題して講演いただいた。
- ③ さいたま市が実施する中学生職業体験事業（未来くるワーク）として3名を受け入れた。また、子育てパパ応援プロジェクトの一環として、園児の父親による「1日幼稚園教諭体験」を実施し2名の父親が参加された。
- ④ 在園生、卒園生、教職員管理の効率化をめざしてデータベースを独自開発し、利用を開始した。

〔聖学院中学校高等学校〕

(1) 教育研究の充実

- ① 授業研究週間（年4回）を設定し、互いの授業を見学しあった。
- ② 教職員研修会にて新大学入試対応の授業実践例を学ぶとともに、聖学院中高のディプロマポリシー原案をレゴ®シリアスプレイ®によるファシリテーションによって構築。
- ③ 職員会議冒頭の15分間を使って、独自性の高い授業、新しい体験学習プログラムについて実践報告した。
- ④ 高校1年「フレッシュマンキャンプ」の内容を改訂し、地域の課題に取り組む企業・団体から学ぶ「社会探究」の要素を加えた。
- ⑤ 高校1年7月「社会探究ウィーク」を設置、社会課題を題材にしながらディベートの基礎を学ぶ。2～3学期にかけて学年挙げてのディベート大会を開催。
- ⑥ 高校2年「沖縄平和学習の旅」のPBL化を促進。各プロジェクトが現地の企業・団体を訪問。
- ⑦ レゴ®シリアスプレイ®ファシリテーター資格者1名増。合計3名。
- ⑧ 6年間の「状態目標」を策定中。中1・中3・高II終了時に達成していきたい状態目標を言語化。

- (2) 環境基盤の整備
- ① フューチャーセンターを開設（9月） アクティブ・ラーニングに適した環境を整備した。
 - ② 華語講座のための特別教室を設置（3月）
- (3) 国際連携
- ① アメリカ・ハワイ提携校への長期留学 2名
 - ② 短期海外研修を実施。オーストラリア（8月）、アメリカ（12月）、タイ（12月）、イギリス（3月）
 - ③ タイではメーコック財団の他、ルンアルン暁プロジェクト（代表 中野穂積氏）と新たに連携し、北タイのコーヒー農園で実習を行った。
- (4) 生徒・教職員等の活躍
- ① 高校Ⅱ年「キャリア甲子園」（マイナビ主催）全国大会に4チームが出場。うち1チームが準決勝進出。
 - ② 高校Ⅱ年「マイプロジェクトアワード」（カタリバ主催）に5チームが出場。
 - ③ 高校Ⅱ年「新しい学びフェスタ」（ベネッセ・聖学院共催）ポスター発表の部で「現代の社会」チームが優秀賞を受賞。
 - ④ 中学3年「クエストカップ」（教育と探求社主催）全国大会に1チームが出場。
 - ⑤ 児浦良裕（数学）・伊藤豊（国語）両教諭のアクティブ・ラーニング型授業がフジテレビ「ユアタイム」で放送される。

〔女子聖学院中学校高等学校〕

- (1) 新たなる教育事業への取り組み
- ① 全ホームルーム教室への電子黒板装置設置が完了した。
 - ② iPadを40台整え、授業での生徒の活用が始まった。
- (2) 教育研究の充実
- ① 「全教員が自分の授業の中にアクティブ・ラーニングの要素を取り入れること」を申し合わせ、その開始の年度とした。
 - ② 学校独自の“生徒による授業評価”を初めて実施（前期末、年度末の年2回）し、各教員の自己研修の契機とした。
 - ③ 国際理解教育プログラム
 - ・中1～高2までの学年必修プログラムを実施（2年目）した。
 - ・立教英国学院への中3の1年間留学の実施（2年目）し、2名が参加した。
 - ・ターム留学（オーストラリアの女子ミッションスクールであるフェアホルム・カレッジ）に高1の4名が参加した。
 - ・ホームステイ（アメリカのランカスター）に高1が26名参加した。
 - ・セブ島英語研修を中3・高1・高2対象に実施（2年目）し、22名が参加した。
 - ④ ラーニングセンター

全学年対象へと拡大させた1年目となった。中1は午後6時まで、中2・中3は午後7時まで、高校生は午後8時まで、学校で個別学習に取り組むことができる環境を整備、運営した。年度途中から、中1保護者の要望もあり、中1も家庭からの申し出があれば、午後7時まで残ることができるようにした。
 - ⑤ 研修会
 - 「コーチングについて」・「授業アンケートを受けて」（8月29日）
 - 「保護者対応について」（8月30日）
 - 「中学入試の現状から女子聖学院のこれからを考える」（3月23日）

(3) 教育研究の整備

いわゆる“特進クラス”を置かない方針であるが、2016年度の中学1年入学生から全クラスの英語の授業を同時置きにし、英語の力の比較的高い生徒を1教室に集めて授業を行った。この授業を受けた生徒は、英語以外の他の教科に対する学習意欲も向上する傾向が見られた。

(4) 環境基盤の整備

- ・チャペル玄関付近の照明環境を改善(「受付」周辺のイメージアップのために)。
- ・顕微鏡40台を新しくした(理科教育のために)。
- ・震災対策：小型浄水器8台を整備(非常時の飲料水確保のために)。

(5) 生徒・教職員等の活躍

- ・第3階中学チアリーディング大会第5位(中チアリーディング部)。
- ・第56回都高等学校吹奏楽コンクールBⅡ組金賞(東日本大会都代表候補となる。高吹奏楽部)。
- ・第56回都中学校吹奏楽コンクールA組銀賞(中吹奏楽部)。
- ・第2回全国中学生フェンシング選手権大会女子エペ個人戦第7位(個人)。
- ・新体操ジュニアフレンドシップ大会第2位(個人)。
- ・第9回東京私立中学高等学校協会第5支部バスケットボール大会準優勝(中バスケットボール部)。
- ・北区中学校連合学芸会(演劇の部)最優秀賞・優秀演技賞(中演劇部)。
- ・第67回都中学校連合演劇発表会(演目「走れ新聞部」)優秀賞(中演劇部)。
- ・2016ブルグミュラーコンクール「東京ファイナル中学生 一般部門」金賞(個人)。
- ・税についての中学生作文 優秀賞(個人)。
- ・第50回都中学校アンサンブルコンテストA部門銀賞(クラリネット五重奏、中吹奏楽部)。
- ・第50回都中学校アンサンブルコンテストB部門銀賞(金管八重奏、中吹奏楽部)。
- ・平成28年度城東地区冬季合同発表会 生徒審査賞1位、優勝賞(高演劇部)。
- ・第20回ボランティア・スピリット賞[首都圏ブロック賞・全国奨励賞](個人)。
- ・第53回全日本書き初め大展览会 日本武道館賞(個人)。
- ・ベルマーク600万点感謝状(ベルマーク教育助成財団より女子聖学院へ)。

〔聖学院小学校〕

(1) 記念事業

創立50周年記念事業として開始した新校舎建築が2014年12月に完成し、2015年1月より使用を開始したが、借入金返済が続くため、引き続き募金活動に力を注いでいる。

(2) 新たなる教育事業への取り組み

- ・児童向けiPadを管理するサーバーにMDMサーバーを導入した。このことにより、4年生と5年生の個人が使用しているiPadはAppleの「クラスルーム」での管理、そしてアプリケーションのインストールや更新などの管理を一元的に行うことが可能になった。
- ・国際飢餓対策機構世界里親会を通して、1学年で1人の同世代の途上国の子どもを支援する活動を始めた。

- (3) 教育研究の充実
- ・4月4日と5日の2日に亘って教職員研修会が行われた。主な内容は iPad の授業支援アプリケーション “MetaMoJi Classroom” の講習会、行事検討のため KJ 法を使つてのワークショップなど。
 - ・8月30日に行われた教職員研修会では、iPad を授業に活かすための講座やプログラミング教育についての講習が行われた。
- (4) 教育研究の整備
- 6月30日と11月10日にワークショップ型授業での研究授業が行われ、その後に研究会が行われた。
- (5) 環境基盤の整備
- ・2年前から1階ランチスペースでの「スクールランチ」は週に2-3回行われてきたが、今年度からはスクールランチ以外の日のお弁当も希望すれば「お弁当ランチ」として注文することができるようになった。
 - ・児童向けデバイス管理のための MDM サーバー導入。Apple の「クラスルーム」の活用が始まる。
- (5) 国際連携
- ・4月末の連休に SAINTS への短期留学として2家庭が参加した。
 - ・5月31日と6月1日に中国から小学4年生77名が来校し、交流の時を持った
 - ・7月19日から27日まで、オーストラリアのクイーンズランド州ブリスベン北部にある MCSS (Mountain Creek State School) へホームステイプログラムを行った。参加児童は5-6年生14名。
 - ・9月16日から23日まで、MCSS (Mountain Creek State School) から9名の6年生が、校長先生と日本語教師の引率で来校し、ホームステイも行った。
 - ・MCSS (Mountain Creek State School) とのスカイプを使った授業交流が試験的に進められた。
- (6) その他
- ・5月27日から28日に1-2年生の宿泊行事として、初めて校内泊である「なかよしキャンプ」を行った。1年生は早く学校になじむため、2年生は上級生としてお世話をすること、さらに非常時に学校に泊まることも想定に入れた経験として行われた。
 - ・10月14日に聖学院中学校高等学校講堂にてダニエル・ゲーデ氏率いるウィーン・フーゴ・ヴォルフ五重奏団による聖学院小学校児童、保護者を対象とした演奏会が行われた。
 - ・3月4日に、聖学院小学校として初めての行事「学習発表会」が行われた。校舎全体を会場にして、保護者を招いて児童によるプレゼンテーションの授業が行われた。

〔聖学院幼稚園〕

- (1) 新たなる教育事業への取り組み
- 2015年度(2016年2月)からの体験期間に続き、2016年度より正式に総合体育研究所の指導員による体操の時間を、年長・年少の保育へ導入した。それに伴い、同指導員による課外の「スポーツクラブ」を開始した。正課、課外の保育活動の充実を図った。
- (2) その他
- 現在ミュージカル女優として活躍中の卒園生による園児向けの音楽会を開催した。

〔聖学院アトランタ国際学校〕

- (1) 新たなる教育事業への取り組み
 - ・アフタースクールの充実
 - ・ランチデー（学校給食だが参加はオプション）：親以外の人を作ったものを食する習慣を共働き家庭を助けることを目的として、さらに週三日に増やした。
- (2) 教育研究の充実
 - ・2016年度は「スマイル」がテーマで、スマイルについて考え、どういうとき、友達が笑顔になるか観察し、笑顔であいさつができるように、各クラスが取り組んだ。
 - ・幼稚部3歳児・4歳児は特に縦割り合同の時間週一回継続
- (3) 教育研究の整備

2016年度は、パナソニック教育財団によるICT教育実践研究助成校に選ばれ、『二言語同時習得を目指すツウウェイ・イマージョン教育校にて、日本人とアメリカ人児童が協働的に学び合うため、また差別化指導を有効に行うためICTを活用する』という研究テーマに取り組んだ。
- (4) 環境基盤の整備

パナソニック教育財団による教育実践研究助成金により、ICT環境の充実のため、書画カメラ4台、タブレット2台、プロジェクタ4台ラップ、トップ3台を新たに購入し、上記の研究に用いた。
- (5) 国際連携
 - ・今年度も様々なサービスラーニングが行われたが、フィリピンサンダルプロジェクトに500足のサンダルをプレゼントすることができた。
 - ・メキシコの小学校とスカイプを行った。
 - ・日本の聖学院小学校児童及び聖学院大学から学生が、セイント体験プログラムに参加した。
- (6) 生徒・教職員等の活躍
 - ・英検2級から4級まで合格者が出た。特に、アメリカに来て一年後、4級を受験した3年生、3級を受験した6年生も合格した。
 - ・世界児童画展入選・特選
 - ・U.S KIDS MAGAZINE COVER CONTEST ウェブ掲載
 - ・自由の女神アート作文コンクール、絵画部門小学校低学年の部、銀賞
- (7) その他

外務省からの助成金が増加し、文科省からも派遣教員補助の助成金が受けられるようになった。

〔法人〕

- (1) A S F 推進委員会・総会

聖学院中学校高等学校講堂にて、第30回A S F 推進委員会・総会が開催された。2015年度募金実績報告に続いて、2016年度募金目標に向けて各校の教育方針および将来に向けた教育プログラムについてのプレゼンテーションが行われた。
- (2) 聖学院大学用地の購入

聖学院大学のAグラウンドとBグラウンドの間に位置する空地となっている土地を2017年3月17日付けで購入した。